

東日本大震災支援のためのタイ医療支援チームの活動 (平成23年5月30日(月)～6月3日(水))

東日本大震災支援のためにタイ政府より派遣された、医療支援チーム第2陣の国立小児病院のスティポン医師及びキム看護師は、活動2週目となる5月30日(月)より6月3日(金)にかけて、以下の日程で福島県に滞在し、避難所における巡回診療活動等を行いました。

5月30日(月)は、日本の医療制度及び医療の現場への理解増進を図るために本年5月16日に開所したばかりの喜多方市地域・家庭医療センターを視察した後、福島市内での避難施設における巡回診療を行いました。そして、31日(火)より6月2日(木)まで、県内各地(相馬市、新地町、郡山市、磐梯町、猪苗代町)の避難施設を訪問し、乳幼児の診療、成人、高齢者の健康状態に関するアドバイス等を行い、3日(金)に福島を発ちました。

タイ医療支援チームは、福島県立医科大学高度医療緊急支援(小児・感染)チームと共に、5月9日(月)より約1ヶ月間にわたり合計223件の診療等を行いました。

閉会式においてスティポン医師より、地震・津波・放射能による被災者への哀悼の意が示され、被災状況からの早急なる復興を祈念する、また、診療に当たった被災者の方々から常に暖かい感謝の気持ちが示されることで豊かな県民性を感じると共に、今回の支援活動に参加できたことを嬉しく、光栄に思う旨発言がありました。



避難生活を送っている幼児を診察するスティポン医師(患者とのコミュニケーションに際し、NPO通訳案内士連合の通訳ボランティアの協力を得ました)。



巡回診療を共に行った、福島県立医科大学高度緊急医療(小児・感染)チームとの記念撮影。



乳幼児の診療の他、成人、高齢者の健康状態に関するアドバイス等、被災者のニーズに応じた活動を行いました。